

現代のライフスタイルにあった温泉地での過ごし方 「新・湯治」の実現に向けた連携事例集 ～「チーム新・湯治」チーム員の取組を中心に～



はじめに

事例紹介の趣旨

- ✓ 環境省では、現代のライフスタイルにあった温泉地の過ごし方として「新・湯治」という考え方に基づいた取組を推進しています。現代社会の課題を解決する場として温泉地が新たな役割を果たしていくために、温泉地だけでなく、多様な団体、企業、行政及び個人の取組が求められています。
- ✓ 環境省では、温泉地において多様な主体により様々な連携が生まれ、これまでになかった新しい取組が展開されることを期待して、平成30年5月に「チーム新・湯治」を立ち上げました。令和4年9月30日現在、393の団体・企業等の方に登録いただいております。
- ✓ 本事例集では、「新・湯治」の実現に向けた連携事例を、「チーム新・湯治」チーム員の取組を中心に整理しています。
- ✓ これらの事例を参考に、新しい温泉地のあり方を提案する取組が日本各地に生まれ、全国の温泉地が活性化することを期待しています。

現代のライフスタイルにあった温泉地での過ごし方
「新・湯治」の実現に向けた連携事例～「チーム新・湯治」チーム員の取組を中心に

目次構成

はじめに	事例紹介の趣旨、目次構成	2-3ページ
取組事例の紹介	1.事例の区分（総合的な取組＋分野別の取組）	4ページ
	2.事例一覧	5ページ
	3.各取組事例の詳細	6-31ページ
	【地域の特性を活かした健康づくりを行う 新・湯治】	6-12ページ
	【温泉地を満喫する 新・湯治】	13-19ページ
	【ワークスタイル創造型 新・湯治】	20-25ページ
	【景観整備・環境配慮型 新・湯治】	26-31ページ

取組事例の紹介

1.事例の区分

- ✓ 多様な温泉地の活用方法について、「新・湯治」に関する取組をカテゴリに分けて整理し、それぞれの取組のポイントや成果を発信することを通じて、取組の目的に応じたチーム員の新たな連携が生まれることを期待。
- ✓ 取組区分は、以下の4つで整理している。

地域の特性を活かした健康づくりを行う 新・湯治♨

医療・運動・食事等に関する専門機関と連携し、温泉資源や温泉地の特性を活かして心身の健康増進を図るための取組（健康プログラムづくり等）

温泉地を満喫する 新・湯治♨

温泉入浴に加えて、自然、歴史・文化、食等、様々な地域資源を活用して温泉地で楽しく過ごすための取組（体験プログラムづくり等）

ワークスタイル創造型 新・湯治♨

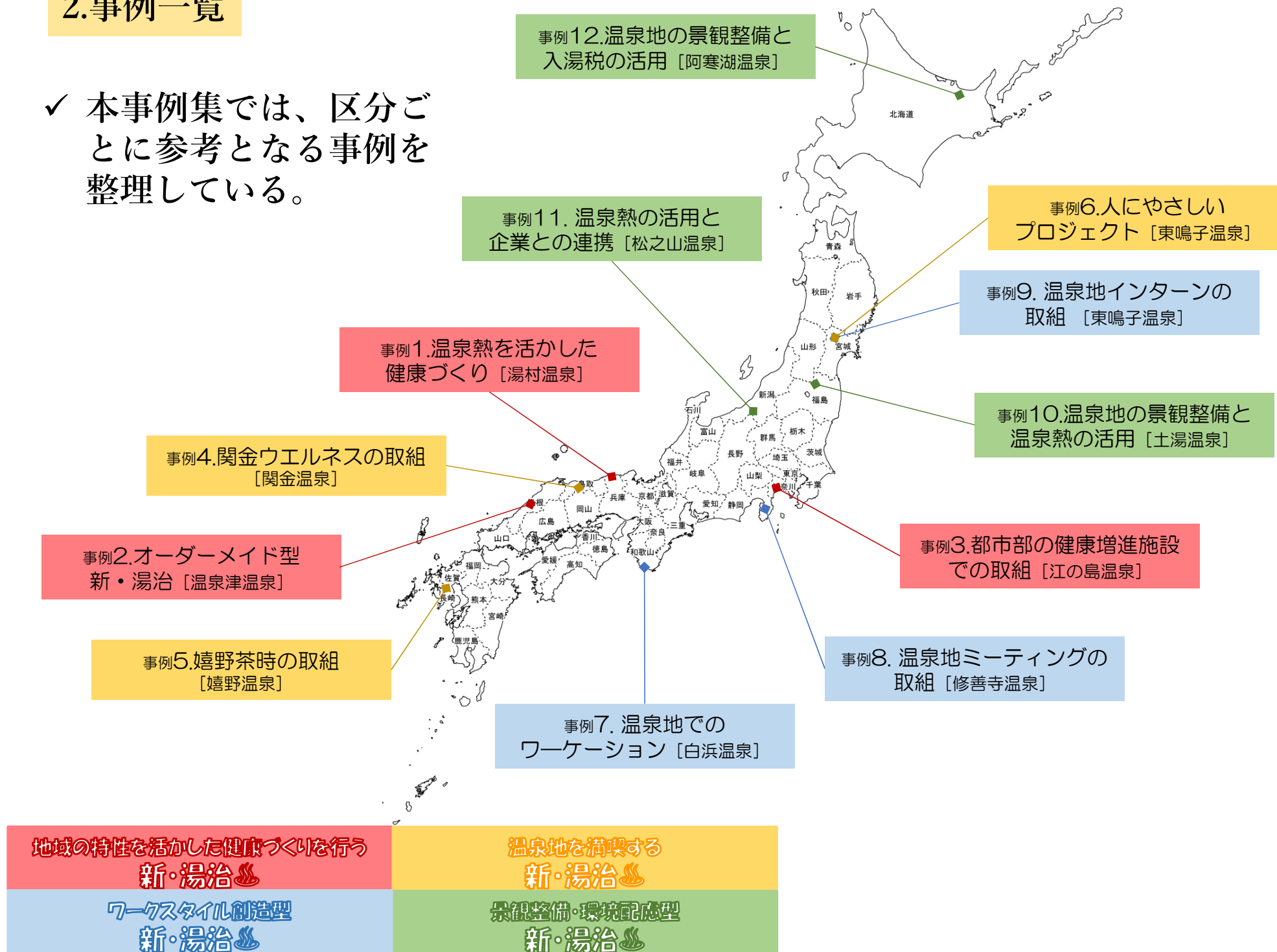
企業と温泉地との連携等によって、新たな働き方の創出に温泉地を活用する取組（ワーケーション等）

景観整備・環境配慮型 新・湯治♨

温泉街及びその周辺の環境改善や温泉熱の多段階利用等により、温泉地で環境に配慮した暮らし、過ごす基盤を整える取組（例：廃屋の撤去、バイナリー発電等）

2.事例一覧

- ✓ 本事例集では、区分ごとに参考となる事例を整理している。



取組概要

キーワード：温熱リラックス、温泉地と都市部の企業との連携、コンディショニング

- 湯村温泉（兵庫県新温泉町）では、「身体を温める」をコンセプトに、高温で豊富な温泉と温泉熱で温められた川沿い空間を活用した体験プログラムを、大阪府及び兵庫県で健康事業を行う企業 5 - R E L A X と連携して2019（令和元）年に実施。「温熱リラックス」として、身体を温めるための運動、食事、体験などのプログラムと、身体の調子を整えるための 5 - R E L A X 指導のコンディショニング（温熱リラックスと朝アクティブ）を京阪神のモニターに提供した。
- 2020（令和2）年には、温泉を活用した健康の発信や健康プログラム（町民の方々のニーズを把握し健康増進を目的として開発した「温泉カラダととのえ塾」など）の開発を共同で行っている。

実施者の概要

○新温泉町

- 兵庫県新温泉町は、浜坂温泉、七釜温泉、湯村温泉の3温泉地を抱える町である。
- 湯村温泉は、日本屈指の高熱温泉（98℃）であり、源泉の荒湯では、高温の湯壺を使って卵や野菜、芋をゆでることが可能。
- 湯量は豊富で約400軒の家庭に温泉が配湯されている。



湯村温泉の水辺の風景（昼間）

○株式会社5-RELAX

- スポーツトレーナーの派遣・育成事業や、一般の方に対しての健康医療の発信の一つとしてパーソナルトレーニングの提供などを行っている。「健康をもっと身近に」というビジョンのもと、より多くの方々の日常が健康で笑顔の溢れるような社会になることを目指している。

OUR VISION

健康を身近に。



豊かなココロと健やかなカラダ、
そしてアイデアに富んだ柔らかなアタマを育て、
今後のグローバル社会を柔軟に生きる教育を行います。
ココロとカラダに優しさを育み、
より多くの方々の日常が健康によって、
笑顔に溢れる社会をつくることを目指しています。

連携のきっかけ

- 2006（平成18）年に新温泉町内の温泉地で開催されたスポーツ関係の行事に、株式会社5 - R E L A X が柔道整復師、鍼灸師として参加し、大会参加者のスポーツケアを行った。
- これをきっかけに、両者が連絡を続ける中で、2019（令和元）年に新温泉町役場と株式会社5 - R E L A X が共同調査を実施し、株式会社5 - R E L A X が湯村温泉の特徴である高温泉を活かした新たなプログラム「温熱リラックス」を提案。
- それを受けて、新・湯治コンテンツモデル調査に応募し、具体的なプログラムづくりや人材の交流など具体的な動きとなった。

取り組みの具体 [1/3]

テーマ：温泉地×温熱×リラックス
(新・湯治コンテンツモデル調査)

○湯村温泉が抱える課題

- 湯村温泉では、荒湯や河川沿いの空間など特徴的な景観、施設を有するものの、温泉街での過ごし方としては、荒湯での湯がき、足湯以外に楽しみが少ない状況にあった。また、宿泊客数、店舗数は減少傾向にあった。

○着目した資源、新たな切り口

- 湯村温泉では、遊歩道の側溝に温泉配管が約90m、埋設されている。しっかりとした熱があり、座ると心地よい。昔は荒湯付近も地面が温かく、寝て過ごしたことがある人も多い。
- 手軽に身体を温める屋外岩盤浴もよいのではないか。お風呂に浸かる湯治だけでなく、地域の特徴を活かした身体を温める「新・湯治」の方法を探った。



○新たなプログラムづくり

- 2019年に新温泉町企画課おんせん天国室と株式会社5-R E L A Xは、試験調査を行い、その評価結果を踏まえて具体的なプログラムづくりを行った。
- 夜空のもと、川沿いの遊歩道に埋設されている配管から伝わる温泉熱を背中を感じながら呼吸法やストレッチを行い心身をリラックスさせることを目的とするもの。同機会を通じて自分の身体と向き合うことは、結果的に簡単に自分でできる健康管理の一つになると考え実施。
- 関西都市部にある株式会社5-R E L A X店舗の健康志向の強い顧客の方々などにモニターとして協力いただきそのニーズ等を把握。



<温熱リラックス>

- コンディショニングとは呼吸法とストレッチで身体の状態を整える動きの少ないプログラム
- しっかりと首と背中を温め、肩こりの緩和を狙う。
- ペットボトルに温泉を入れて手のひら、首、お腹を温める。
- 川のせせらぎ、冷たい空気ですリラックス
- ヒーリング音楽色に変化するLEDライト
- 外気温によりブランケット等



春來川の河川敷でお尻に温泉熱を感じながらコンディショニング（夜間）

取り組みの具体 [2/3]

○プログラムの内容

- ・二日間にわたって、身体を温めるための運動、食事、体験などのプログラムを提供。5－R E L A X指導のコンディショニング（温熱リラックスと朝アクティブ）で身体の調子を整えた。
- ・また、ワークショップを行い、日々のボディケアの重要性と取組方を学ぶとともに、宿泊先の協力のもと、「身体に優しい」創作会席と朝食を提供するプランも提供。

○ニーズ調査結果

- ・参加者からは、「フィットネスなどで行っているヨガでは味わえない、自然の中で、さらに温熱を利用することで味わえる爽快感は格別」「湯村ならではの体験ができた」などの高評価をいただいた一方、コンディショニング等に関する事前の情報提供不足や、河川敷の環境を活かすための装具の改善など、課題も明らかとなった。

取り組みの具体 [3/3]

- ・「地域おこし企業人」として、新温泉町役場のおんせん天国室に派遣され、温泉を活用した健康の発信や健康プログラム(町民の方々のニーズを把握し健康増進を目的として開発した「温泉カラダととのえ塾」など)の開発を行っている。

地域おこし企業人としての活動

新温泉町役場：企画課 -おんせん天国室-

ミッション：温泉を活用した**健康**の発信

地域（町民）への健康

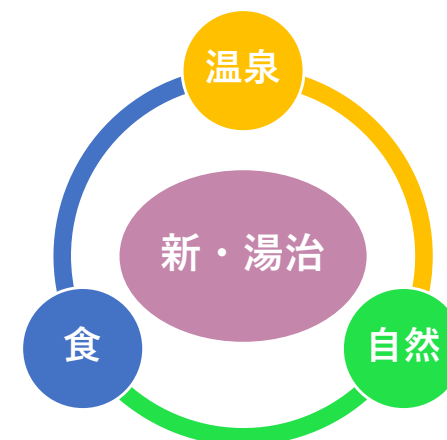
観光客向けプログラム作り

温泉カラダととのえ塾



現在の状況、目指す方向性

- ・今後は、「新温泉町＝新・湯治のまち」というブランディングを目標として、新温泉町ならではの価値を持つコンテンツを開発していく予定。まずは町民の方々の健康水準を高める取組を行い、地域内外の方に「このまちの人は皆が生き生きしている、元気だね」と思ってもらえるようなまちをつくることを目指している。



取組概要

キーワード：オーダーメイド

- 温泉津温泉（島根県大田市）にある薬師湯では、湯治の方法を個人に合わせた「オーダーメイド型 新・湯治」を提唱するために、新・湯治の効果を把握する調査を専門機関(島根県立大学)と連携して実施。
- その結果、温泉入浴のオーダーメイドの有用性として、温泉により自律神経活動は大きく変化し、自律神経を活性化・整える効果があることも明らかになった。
- 湯治の方法は個人の心身状態に合わせたオーダーメイドとし、湯治スケジュール、スキーム提案を行うことの可能性が示唆されるとともに、温泉施設側は、自身の温泉施設や温泉地の特長を把握し、独自の新しい湯治の方法を見出し、エビデンスに基づき、利用者の健康状態に応じた入浴方法や入浴後の過ごし方などの提案が必要となってくるとのことであった。

温泉津温泉

- 温泉津温泉は、2007(平成19年)年7月に登録された世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の構成資産の一つであり、全国初、国の重要伝統的建築物群（町並み保存）に指定された温泉地でもある。



薬師湯HPより

実施主体・関係者

- 薬師湯は、温泉津温泉の中心的位置にあり、レトロ調の建物。源泉は施設の真後ろにあり、地下2～3mからの自然湧出。湧き出している源泉の温度は約46度。

調査のきっかけ

- 薬師湯では、2020（令和2）年度に新・湯治の効果を把握し、湯治の方法を個人に合わせた「オーダーメイド型 新・湯治」を提唱するために、専門機関(島根県立大学)と連携して調査を実施。
- きっかけは、薬師湯にときどき、温泉で湯当たりされるお客様がいることに心を痛めていたこと。
- スタッフ、消防署の方をはじめ関係者と協力しながら毎年訓練等を実施している中で、**お客様から主観ではなくしっかり研究すべきだ**というお話をいただいた。そこで、島根大学医学部大学院に入学し、温泉を医学的に研究し現在の入浴法を編み出した。
- 温泉は好きなように入っているものではなく、入浴方法を間違えると牙をむくこともある。**高齢者入浴アドバイザー協会の教本等を通じて勉強をし、お客さまに薬師湯での入浴方法等をお伝えしている。

モデル調査事業

- モデル調査事業では、**湯治を知らない若年層をターゲット**とし、湯治の効能を理解、科学的に実証し、新たなスタイルの実現に向けた調査研究を行った。湯治が及ぼす自律神経機能への影響を測定するとともに、ストレスや効果の可視化も試みた。
- 温泉利用指導者、気候療法士、介護福祉士、温泉ソムリエ、看護師、保健師免許所持者の方々と協力し、島根県立大学の専門家、測定会社のクロスウェルとデータ解析のサポートをいただき、温泉浴および温泉地を活用したオーダーメイド型の『新・湯治』について検討した。
- 日帰り型湯治体験では、温泉入浴前・入浴中・入浴後の自律神経を測定すると、温泉入浴によってネガティブな感情が減り、効果が出ていることがわかった。
- 宿泊型湯治体験では、温泉入浴、ミニツアー体験、食事など、現地を過ごしていただいた。**数値結果として交感神経が副交感神経よりも低くなっており、入浴後1時間程度は、自律神経活動が非常に活性化**していた。
- 温泉入浴のオーダーメイドの有用性として、温泉により自律神経活動は大きく変化し、**自律神経を活性化・整える効果**があることも明らかになった。また、入浴後はゆっくりと温泉地に滞在することで、自律神経機能が改善され、ポジティブな気分になるので、セルフメンタルヘルスも行えるだろう。そのために、温泉に加え、食・自然・歴史・文化・体験など地域全体を楽しんでいただくことが大切だろう。



温泉入浴のオーダーメイドの有用性

- 温泉により自律神経は大きく変化する
⇒自律神経を活性化・整える効果がある
- 入浴後も自律神経は大きく活動している
- 自律神経は個人個人・その日の体調によって大きく異なる

自身の**温泉の特徴**を把握し、
利用者の**健康状態**等に応じた

かけ湯の方法	入浴方法	入浴後の過ごし方
--------	------	----------

調査結果と今後の展開

- 今回の調査で、**湯治の方法は個人の心身状態に合わせたオーダーメイドとし、湯治スケジュール、スキーム提案を行うことの可能性が示唆**された。オーダーメイドは、新・湯治スタイルのメニュー開発、事業化への仕組みづくりや方向性に役立つだろう。温泉施設側は、**利用者に助言をし、心身両面でのバランスの取れた健康な身体の導き出すことが、今後の湯治に意味をなすのではないか。**そのためにも、**自身の温泉施設や温泉地の特長を把握し、独自の新しい湯治の方法を見出し、エビデンスに基づき、利用者の健康状態に応じた入浴方法や入浴後の過ごし方などの提案が必要。**
- 入浴客を受け入れるだけの受け身状態から脱却し、**アドバイスを希望する入浴者には積極的に対応することで関係性を構築し、施設側と利用者のコミュニケーションを大成するのが、これから新・湯治であり、リピートされる新・湯治につながるだろう。**

取組概要

キーワード：温熱リラックス、温泉地と都市部の企業との連携、コンディショニング

- 江の島（神奈川県藤沢市）に位置する江の島アイランドスパは、島内唯一の天然温泉であり、江の島という環境や立地を活かした取組を行っている。2013（平成25）年に温泉利用型健康増進施設に認定された施設であり、比較的都市部に近い立地に位置している。
- 同施設を利用した療法として、5つの療法（スパセラピー温泉療法、アクアセラピー運動療法、アイランドセラピー気候療法、フードセラピー食事療法、ハンドセラピー手技療法）を提唱している。
- 会員制度「ホリスティッククラブ」では、常設の「えのすばクリニック」と連携。利用者の抱える体力や健康上の不安を、楽しみリラックスしながら解消している。

江の島・江の島アイランドスパ

- 江の島は、周囲約4km、標高約60mの陸繋島である。島内には、江島神社のほか、天然温泉を有する江の島アイランドスパがある。
- 江の島アイランドスパは、温泉利用型健康増進施設（2013（平成25）年認定）であるとともに、神奈川県未病対策推進施設、スパ振興協会登録施設でもある。



温泉利用型健康増進施設

江の島アイランドスパ

私たちが提供する「日常生活に、温泉を核としたリラックス環境・アクティビティ」とは。

温泉を核とした様々な健康サービスを提供し「現代の湯治場(湯治施設)」として国民の皆様が安心してご利用できる場所となることです。

【主なターゲット分類】

- | | |
|------------------------|--------------|
| ① 健康経営として、自社社員への提供 | → IGHD社員割引制度 |
| ② 近隣住民へ健康サービスの提供(クラブ化) | → クラブ会員制度 |
| ③ 健康経営企業(法人)への提供 | → 健康セミナー |
| ④ 一般ユーザーへの提供 | → 日帰り温泉&プール |
| ⑤ IGHDが販売する住宅購入者への提供 | → すまいだPlus |

- 島内唯一の天然温泉であり、江の島という環境や立地を活かした取組を行っている。
- 江の島から、湘南の海や雄大な富士山など、最高のロケーションを見渡ししながら、心身共に癒され、身体を精神面からも健康にし、人間が本来持っている「自然治療力」を高め、未病の改善ができる環境がある、との考えのもと、「えのすば」では、補完・代替医療を取り入れ、日本で最先端の本格的スパリゾートを目指して取り組んでいる。

事例 3 都市部の健康増進施設での取組 [2/2]

地域の特徴を活かした健康づくりを行う
新・湯治

未病の捉え方

- 人の健康状態は、健康と病気を明確に区分できるものではないことから、現在の状態に対してより健康的な状態へと向かうための取組をしている。

施設及びプログラム等



スパセラビ°-温泉療法



アクアセラビ°-運動療法



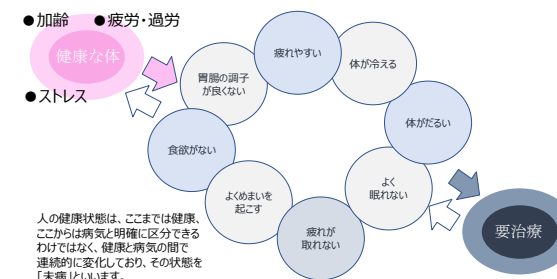
アライントセラビ°-気候療法



フードセラビ°-食事療法



ハントセラビ°-手技療法



企業（都市部及び近隣）・近隣住民との関係構築

- 神奈川県内各地に出かけていき、健康セミナーやブースの出展を通じて、温泉や入浴方法、入浴しながらできるストレッチなどを紹介。入浴する楽しさや癒しを知ってもらうことが重要であり、少しでも多くの方に伝えるためには、自分たちが外に出ていくことが大切。
- 近隣企業に対しては、ヘルスツーリズム等を提供している。実際に来ていただいて、入浴し、ヘルシーランチを食べていただいたりしている。
- 近隣住民への健康サービスとしては、会員制度「ホリスティッククラブ」を設けている。常設の「えのすばクリニック」と連携しており、利用者の抱える体力や健康上の不安を、楽しみリラックスしながら解消していくクラブである。温泉利用指導者や管理栄養士など、各分野の専門インストラクターを備え、一人の会員に対して包括的にアドバイ。同施設を利用した療法としては、5つの療法を提唱（上写真）。2020（令和2）年3月には、江の島ホテルがオープンした。今後は、宿泊型保健指導にも取り組む予定。

温泉利用型健康増進施設

- 温泉利用型健康増進施設としての医療費控除の申請実績としては、毎年20件以上の方に申請いただいている。コロナ禍でオンライン化が進む中で、温泉地や温浴施設の体感をどこまで提供できるかが重要である。また、従来施設で行っていた講義をオンラインでも認め日数にカウントできるようになると、より申請しやすくなり、健康な暮らしにつながっていくのではないかな。



地域での健康セミナー



江の島ホテル

取組概要 キーワード：国民保養温泉地、関金温泉ウエルネス

- 関金温泉（鳥取県倉吉市）では、国民保養温泉地計画に基づき、健康になれる温泉地・滞在したくなる温泉地を目指して、泉質のよい温泉と自然、文化、食などの地域資源と運動を組み合わせた、滞在プランの造成、提供を通じて、「健康」をテーマとした地域ブランドの確立に取り組む。
- 2020（令和2）年には、「健康に資する温泉地」を形成するため、関金温泉振興組合、地域団体や倉吉市商工観光課が連携し、「関金温泉健康づくりプログラム検討会」を組織。
- 「温泉地×転地療法×地域食材」をテーマに、4つの体験の柱「運動・食事・温泉・癒し」を軸にした「関金温泉ウエルネス」を打ち出す体験ツアーを実施している。

関金温泉

- 関金温泉は、行基が発見したと言われる開湯1300年以上の山陰屈指の古湯であり、ラジウム含有量が多い無色透明の温泉は「白金の湯」と称され、古くから湯治で利用されてきた。
- 関金温泉のある旧関金町には、大山山麓の自然の恵みから作られるわさびや川魚、その他農産物が豊富であり、リゾート開発等がされなかったため、昔ながらの文化、歴史や豊かな自然環境が残っている。



国民保養温泉地計画

- 関金温泉は、1970（昭和45）年に国民保養温泉地へ指定。
- 最盛期には10軒の旅館があったが、旅行形態が団体旅行から個人旅行へシフトする中で観光客も減少、2022（令和4）年現在は宿泊施設は2軒のみとなっている。
- 2017（平成29）年の関金温泉開湯1300年祭では、地域の宝である「温泉」に立ち返るとともに、地域に散らばる地域資源を掛け合わせ、魅力を発信する取り組みを推進。
- 2018（平成30）年に国民保養温泉保養地の計画を見直し、滞在することで健康になれる温泉地を目指す。

関金温泉国民保養温泉地計画

- 4つの方針（関金温泉及びその周辺の地域全体で取り組む指針として策定）
- （1）関金温泉とその周辺の豊かな自然環境を保護するとともに、自然環境を活かした事業を行う。
 - （2）健康をキーワードにした取り組みを充実させ、医療機関との連携を図りながら温泉利用者の滞在を推進していく事業を行う。
 - （3）関金温泉の温泉街では、より風情のある雰囲気醸成していく取り組みを行う。
 - （4）関金温泉とその周辺の歴史・文化・風土を継承して活用していく取り組みを行う。

取組の背景

- 2017年（平成29年）の関金温泉開湯1300年祭では、地域資源の掛け合わせによる「関金ならではの体験」を創出。同取組は**主に地域住民向け**のもの。
- その後の国民保養温泉地計画に基づく取組は、**個別の体験等の造成**であり、十分に魅力を発信できていなかったため、県外等からの観光客の誘客や周遊、滞在に繋がっていなかった。
- そこで、温泉と自然、文化、食などの地域資源と運動を組み合わせた健康になれるパッケージの造成に取り組んだ。

実施者・関係者の連携体制

○関金温泉振興組合

- 温泉と地域を結びつけ、温泉街を活性化するために、2020（令和2）年6月に発足。
- 前身は、関金温泉旅館組合。
- 温泉旅館のみではなく、観光協会や地域の活動団体等も組織員として加えた。

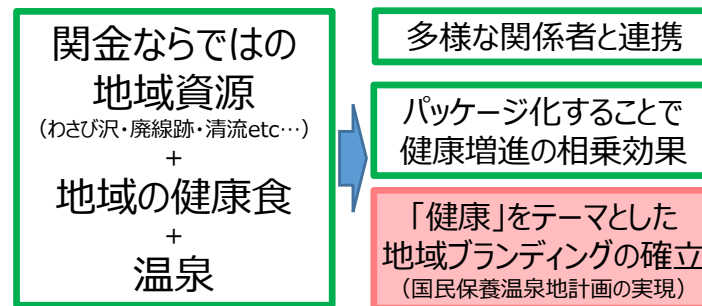
○関金温泉健康づくりプログラム検討会

- 5団体（関金温泉振興組合、倉吉観光MICE協会、倉吉市体験型教育旅行誘致協議会、倉吉市商工観光課、有限責任事業組合白金）で定期的な協議の場を設け連携。

関金ウエルネス[1/2]

- 関金ウエルネスとは、関金温泉やその周辺を舞台とした4つの体験「運動・食事・温泉・癒し」を柱としたプログラム。
- 具体的な4つの体験の内容は、右の図の通り。
- それぞれの4つに対して、関金温泉ならではの体験等を組み込み説明。プログラム体験前には「たびのしおり」を送付し、参加者に健康を意識づけ。

温泉地×転地療法×地域食材



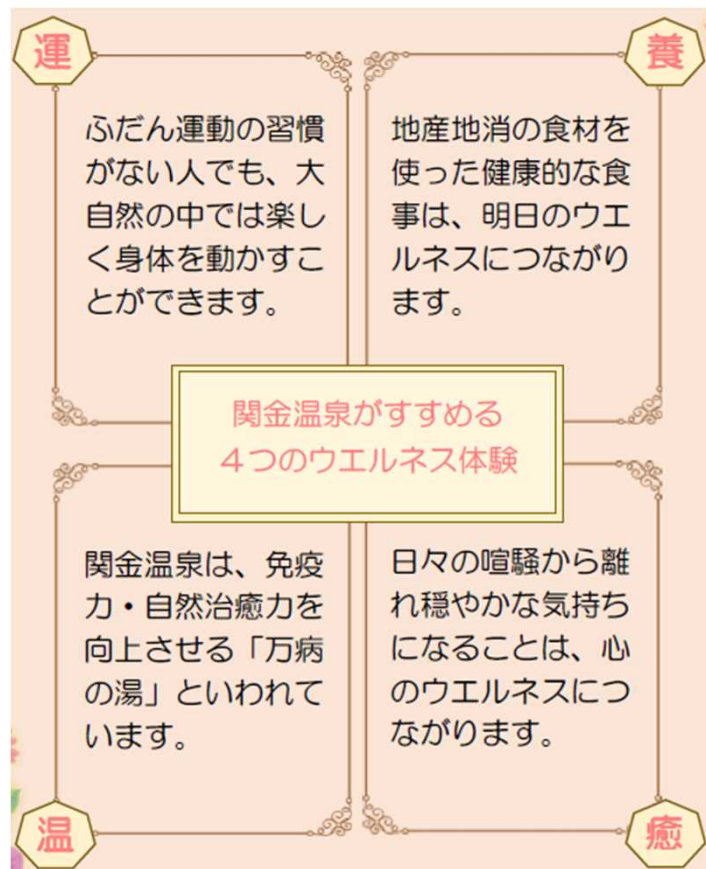
時間	行程
9:00	バイタルチェック（体温・血圧・脈拍）、行程説明
9:40	ストレッチ、わさび沢散策&森林浴
11:30	昼食
12:30	旧国鉄倉吉線廃線跡ウォーキング、ストレッチ
14:10	バイタルチェック、温泉入浴
15:00	意見交流会

関金温泉ウエルネス体験コンセプト



関金ウエルネス[2/2]

- パッケージ化にあたっては、4つの柱の体験の中に同パッケージでしか体験できないプログラムを組み込むことで、消費者にとって希少価値を持たせるとともに、そうした体験を組み込み、「関金ウエルネス」「健康に資する温泉地」であることを戦略的に意識づけていると見ることができる。



各季節、時期に応じて体験を組み合わせる価値付け

リゾート開発等がされなかったため、残っている昔ながらの文化、歴史や豊かな自然環境を活用



旅のしおり

募集ちらし

取組概要

キーワード：嬉野温泉、嬉野茶時、

- 嬉野温泉（佐賀県嬉野市）における『嬉野茶時（うれしのちゃどき）』は、嬉野茶（うれしの茶）、肥前吉田焼、温泉（宿）の三つの伝統を重んじ、時代に合わせて新しい切り口で、「食す」・「飲む」・「観る」という空間を生み出すプロジェクトで、この地、この場所に住む人々が全てを考え、全てを育み、全てをもてなすプロジェクトである。
- 旅館経営者、茶農家が統括プロデューサーとなり、茶農家・茶師、料理人、菓子職人など、温泉街だけではなく、温泉地周辺のさまざまな関係者と連携しながら、取組を推進している。

嬉野温泉

- 嬉野温泉は、嬉野川の清流沿いに位置する温泉地。長崎街道の宿場町であり、1300年の歴史がある。
- 「日本三大美肌の湯」の一つ（他の2つは、島根県の斐乃上温泉、栃木県の喜連川温泉）。
- 温泉を利用した温泉湯豆腐や嬉野茶などが有名。
- 最盛期には80軒以上あった旅館は、30軒程まで減少。



嬉野温泉観光協会HP

取組の経緯

- 2016（平成28）年に、旅館経営者、お茶農家、吉田焼作家など地元有志メンバーで開催したイベントを開催したのが始まりである。
- 従来は、温泉地は温泉地、茶畑は農地という捉え方であったが、舞台としての温泉・温泉旅館、飲むお茶、それを入れる器を作れる土地と捉え直し、その三つの歴史伝統文化をひとまとめにした。



茶畑と麓にある温泉街



杜の茶室



茶塔

コンセプト

- 『嬉野茶時』は、コンセプト（下記）を共有した人々が一緒になって実施。写真というビジュアルを介してクオリティを共有。
- また消費者向けのコンセプトは、「一杯のお茶を求めて旅が計画される、その旅先は嬉野」。
- 三つの歴史伝統文化が誇り高く美しいものだと早い段階で気付けたことがポイントとのこと。



出典：嬉野温泉資料 「チーム新・湯治」セミナー「温泉地のトータルデザイン力」資料
(https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_team.html)

地元向けの取組

- 『嬉野茶時』では、「嬉野晩夏」というイベントも開催。「嬉野晩夏」というチラシがあるかと思う。一般のゲストを入れず、チラシを撒かず、温泉、お茶、陶器関係、行政、県職員に向けたイベント。

体験方法

- 『嬉野茶時』のコンセプトを体感できるように、具体的な提供のカタチを創出。
- 生産者と消費者をつなぐ場として旅館を活用したり、茶畑に新たな空間（前ページ参照）を創出。外部の企業等とも連携しながらイベント等を開催。

企画

食す

茶に始まり、茶に終わる、食事会



嬉野晩餐会



フレンチ茶会



一茶一葉

飲む

生産者が栽培、製茶、ティーセレモニー、サーブ（提供）までの全てを担う



嬉野茶寮



嬉野茶寮 to go



The Tea Salon

買う

嬉野茶時で提供される茶葉を世界へ



セレクトショップ



歩茶



新茶会

観る

嬉野の歴史的伝統文化を新しい切り口で表現するミュージアム



吉田焼ミュージアム



嬉野茶ミュージアム



嬉野温泉ミュージアム

出典：嬉野温泉資料 「チーム新・湯治」セミナー「温泉地のトータルデザイン力」資料
(https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_team.html)

今後の展開

- 『嬉野茶時』の成果を今後は『ティーツーリズム』という形で広げ、嬉野の魅力がより伝わるようになる展開していく予定。

取組概要

キーワード：性的マイノリティ、乳がん手術経験者、家族風呂、貸切風呂

- ・ 鳴子ワカモノ湯治は、東鳴子温泉（宮城県大崎市）の特徴である宿泊者が無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度を上手く活用し、「人目を気にせず入れる」という新たな価値を伝える取組を実施。
- ・ 2019（令和元）年は、日々の生きづらさを感じている身近なマイノリティ（性的マイノリティ、乳がん手術経験者等）を対象に、心身の休養・保養ができる環境づくりに取り組んだ。
- ・ 地元温泉地や、性的マイノリティの当事者と支援者の団体「東京大学TOPIA」の協力を得て、調査を実施。
- ・ 鳴子温泉郷で開催された、新しい過ごし方を「湯治ウィーク」期間中にあわせて、東鳴子温泉の各旅館の貸切風呂の特徴を一つの情報として整理した手書きの案内シートを配布して、温泉地の特徴を体感する過ごし方を発信。

東鳴子温泉

- ・ 東鳴子温泉は、宮城県の北に位置する古来より湯治や長期療養滞在、宿泊、日帰り入浴もできる湯治場。鳴子温泉郷の一つ。
- ・ 11軒ある温泉旅館のうち6軒で宿泊者は無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度がある。



ひとにやさしい温泉地プロジェクトの趣旨背景

- ・ 宿泊者は無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度がある、他の温泉地にはないこの特色を活かして、温泉に“入りづらさ”を感じている身近なマイノリティ（性的マイノリティ、乳がん手術経験者等）の方が、日々の生きづらさを忘れて心身の休養・保養ができる環境づくりを「ひとにやさしい温泉地プロジェクト」として実施。
- ・ 性的マイノリティの温泉利用に関する調査では、周囲の視線などから、日頃多くの方が温泉の利用にあたって課題を抱えているという結果が得られ、乳がんの患者コミュニティからも、温泉旅行を諦めていた人も多いとのこと。



事例 6 人にやさしい温泉地プロジェクト [2/2]

温泉地を満喫する
新・湯治

実施主体・協力体制

- 鳴子ワカモノ湯治
 - ・ 東大温泉サークルOKRが実施する複数あるプロジェクトの1つ
- 地元温泉地
 - 東京大学TOPIA
 - ・ 性的マイノリティの当事者と支援者の団体

ひとにやさしい温泉地プロジェクトの実施内容

- ・ 「ひとにやさしい温泉地プロジェクト」では、「湯治ウィーク」（右上図）中に、6軒の旅館の宿泊者に対して、各旅館の貸切風呂の特徴を一つの情報として整理した手書きの案内シート（写真右）を配布するとともに、感想やプロジェクトへの意見を把握するためアンケート調査を実施。
- ・ 一般宿泊者42名から回答を得て、多くの方からプロジェクトに対する賛同、理解を得た。一方でマイノリティ当事者の方への調査は難しく、別途モニター調査を実施した。
- ・ 実際に現地を来訪した当事者の方々はコンセプトに賛同する一方で、案内を充実させてほしいなどの意見が聞かれた。



29 Sun 海産山彦市 東鳴子温泉ひとにやさしい温泉プロジェクト
おんせんボックス presents 「本に浸かる、本で癒す」
時間/10:00-17:00 場所/鳴子温泉郷 東大温泉サークルOKR、東京大学TOPIA

28 Sat 鈴木広志さん告知ライブ
ほろ酔いワークショップ
お酒の子守歌ライブ

27 Fri 中国武術健康体操十八法体験会
温泉療養法による「温泉療養相談室」

26 Thu 鳴子の米プロジェクト 鳴子よいこ便

25 Wed ヨガ体験「三宮荘」
ノルディックウォーク体験会

24 Tue ノルディックウォーク体験会
医療と湯治フォーラム 日鳴子温泉郷

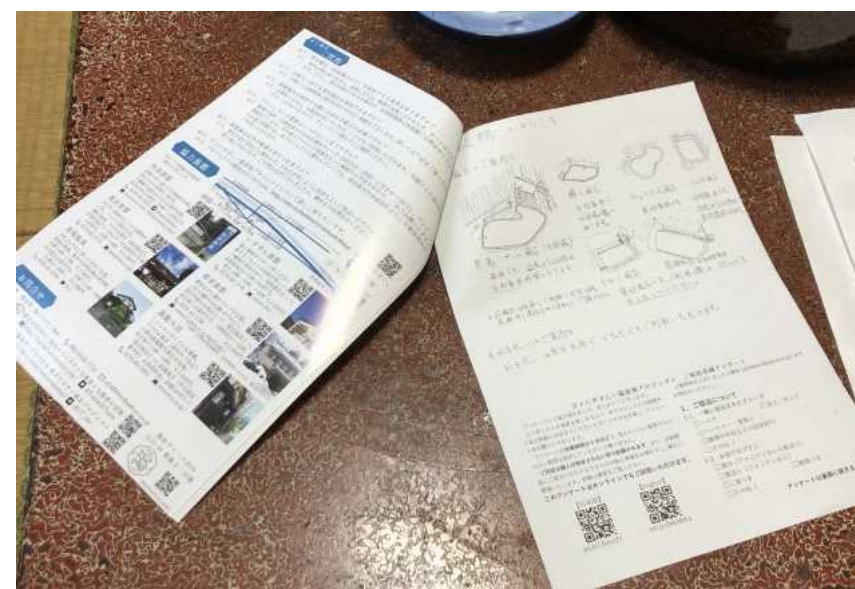
23 Mon 高橋佳生ライブ
石井宏子さんと巡る
鳴子温泉ツアー

「本に浸かる、本で癒す」文庫各所
全6冊 全12巻
東京大学出版会
TEL: 03-5447-1711 FAX: 03-5447-1712

【東鳴子温泉】(0239-25-9620) 本町温泉 0239-25-9620
久田旅館 04-7639 いさみ旅館 83-3448
旅館紅せん 83-2491 助七湯 83-3038
五波湯 83-3370 旅館大湯 83-3052
旅館おんや 83-3437 水戸カニニューあま 83-3062

【川渡温泉】(0239-25-9620) 本町温泉 0239-25-9620
旅館ゆき 04-7676 東五郎の湯 高美旅館 04-7220
旅館ゆき 04-7005 旅館二宮 83-3778
山とこの湯 みやま 04-7336
湯あみの湯 ぬまぐ 04-7253

出典：湯治ウィークパンフレット (http://www.ohnuma.co.jp/kikaku/toji_week.pdf)



取組概要 キーワード：ワーケーション、ワーケーションオフィス

- 南紀白浜温泉（和歌山県白浜町）では、和歌山県が「ふるさとテレワーク」の実証事業で企業誘致に注力しており、ワーケーションも企業誘致の一環で実施。
- 海外にあったワーケーションという概念を取り入れ、お試しとして体験できるものとしての位置づけ。あくまでも企業誘致を軸にワーケーションを推進。
- 現在では、白浜温泉及びその周辺に多くのワーケーションスペースやサテライトオフィスが設置されている。また、ワーケーションのためのプログラム（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の古道の維持・修復活動をプログラム化）も準備。

南紀白浜温泉

- 南紀白浜温泉は和歌山県西牟婁郡白浜町にある海岸沿いに位置する温泉。
- 有馬、道後と共に「日本三古湯」の一つに数えられる。



白浜温泉旅館協同組合HPより

受入自治体の取組など

○和歌山県・白浜町

- 2017（平成29）年度から和歌山県はワーケーションに取り組んでいる。和歌山は東京から白浜空港まで1時間ほどで来られることが強み。
- ICT関連の企業、人材を和歌山に持ってきてもらい地域活性化を推進してきた。将来的には移住にも繋げたい。
- ワーケーションが盛り上がり、ワーカーや事業そのものをビジネスとして創出できないかという考えのもと、和歌山県としてもPR、ブランディングを行い、新しい価値を和歌山県から全国に発信していきたい。
- ワーケーションとは、今までの場所、人の制約を越えて今まで出来なかった価値を実現すること。例えば、開発合宿を行ったり、親子ワーケーションー家族で来て子供さんたちはアクティビティで楽しく遊び、その間、お父さんは仕事だが、アフターファイブは家族と過ごすなど、ワークとライフのバランスをとる。
- アクティビティを通じて地元の観光資源にも触れ合える。地域貢献、研修、オフサイトミーティング等とも組み合わせて、自分だけのワーケーションを和歌山県で行っていただきたい。



白浜町第2ITビジネスオフィス外観



専用室内 スクリーン

関係者の取組など（一例）

○三菱地所

- 「ワーケーション」を、休暇ではなく「Workの質を高め、様々なationを生み出す働き方」と定義し、イノベーションを起こすための新しいワークスタイルとして提案。
- そして、これまでにない新しい働き方を実現させる場所として、ワーケーション施設「WORK×ation Site」を南紀白浜と軽井沢に整備。
- 南紀白浜の「WORK×ation Site」は2019（平成31）年1月にプレオープン。
- オフィスというのは箱を作るだけではなく、働く場、ビジネス、あるいはイノベーションを生み出す場。
- VACATIONに限定しない、いろいろなATIONを実現できるワークスペース、多様な働き方を受け止める施設と捉えて、マーケット全体を育成していくことが重要。
- 今はハードだけでなく、仕組みそのもの、交流そのものを生み出す仕組みをサービスとして提供していく必要がある。
- 南紀白浜では、環境の素晴らしさ等からIT系企業の移動が進んでいる。行政によるバックアップ体制もある。



WORK×ation Site 南紀白浜 専用室内ソファ席

- 温泉地でのワーケーションについては、温泉は必須アイテム。その上で、ビジネスユースという視点から、施設でのプライバシー確保とともに、「この場所で新たな価値をつくりに来ている」と利用者の気持ちを切り替えられる、ワークにスイッチを入れられるような工夫が必要ではないかということでした。

- ワーケーションオフィスは、一日単位で貸し出す。合宿の他、常時そこで働く、有給消化での利用なども可能。利用によるメリットは、集中的に作業し成果を出すという生産性。二つ目はチームが仲良くなる、気分転換でモチベーションが上がる。三つ目はCSRなどの社会的使命に企業が応えるというニーズを社員が意識する、またはビジネスとして生まれてくるという効果を生む。
- こういった宿泊合宿、研修合宿は温泉地でないと、という企業様は非常に多い。同オフィスに宿泊機能がないことで、地元の方との素晴らしいコラボレーションが生まれ、宿泊施設に私どものお客様を紹介させていただいたりすることで、地元にお金が落ちる仕組みとなる。

取組概要

キーワード：ターゲット設定、コラボレーション、オープンイノベーション

- ・ 修善寺温泉（静岡県伊豆市）にて、株式会社ベーシックは、「温泉地×Business Woman&オープンイノベーション」というテーマで、温泉地を活用する「温泉地ミーティング」を実施。
- ・ 「女性活躍推進」というテーマのもと、ターゲットに合わせたメディアや温泉宿泊施設とコラボレーションし、ディスカッション等を行うプログラムを実施。
- ・ その結果、一般的な「リフレッシュ効果」「気分転換」という温泉地や自然環境効果に加えて、別途、すぐにビジネスやプライベートに活用できる、気づきや意識変革が大きな成果としてあがった。
- ・ 自治体や温泉地がテーマを設定し、ターゲットに応じた施設やメディア等と連携して行うなど、様々なバリエーションが考えられる。

修善寺温泉

- ・ 修善寺温泉は、伊豆半島の内陸部にある温泉地である。
- ・ 桂川の清流沿い位置する温泉地で中州にある「独鈷の湯」は、同温泉地のシンボルとなっている。
- ・ 開湯から1,200年以上の歴史と由緒がある。



実施主体・関係者

○株式会社ベーシック

- ・ 企業を対象とした研修やプロジェクト等を行っている。
- ・ 知的生産性を高める時代において、温泉地においては、週末に集中する観光だけに頼るのではなく、「働く」という視点から資源を見直し、平日の活用を促していくことが重要との考えで事業を実施。

温泉地での新しいスタイルの滞在

- ・ 温泉地と企業、それぞれの課題を解決するために、観光だけに頼らない、新しい湯治スタイルのあり方×企業との連携を提案。

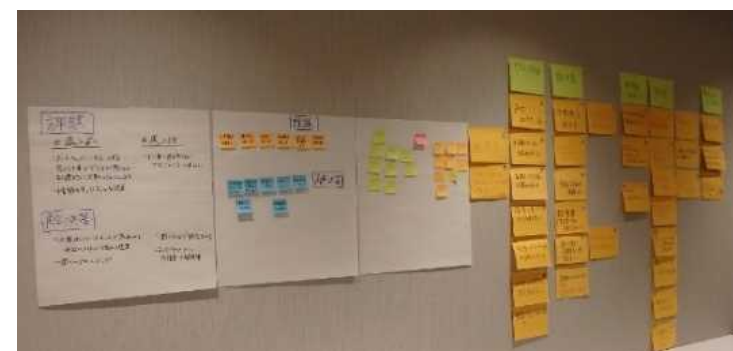
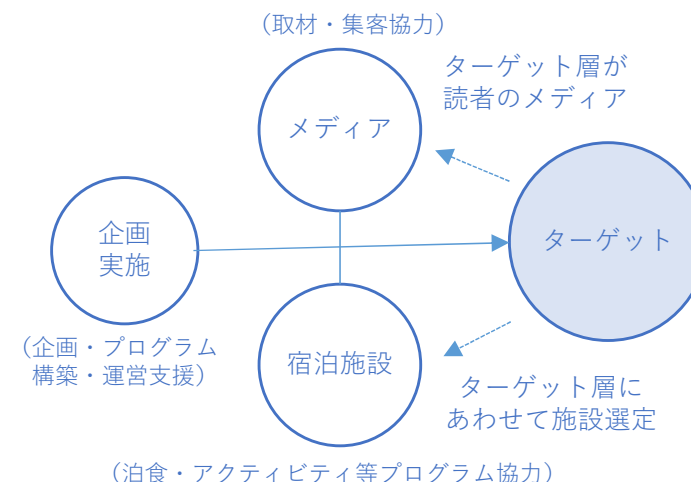


→『温泉地の活性化』・『課題解決』にも繋がる、

新しい湯治スタイルのあり方×企業との連携

温泉地ミーティング

- 温泉地ミーティングの実施にあたっては、ターゲットに合わせたメディアや温泉宿泊施設を選定し、コラボレーション。
- 滞在中のプログラムも、ターゲットに合わせたソフトのプログラムを企画、実施。
- 温泉地という、心も体も開放的になるリフレッシュできる環境の中で、さまざまな企業の業種・部門の、Business Womanたちが集い、温泉や自然を楽しみ、交流することで、思考の枠組みを外す、オープンイノベーションミーティングの実証を伊豆修善寺温泉で実施。
- 株式会社ベーシック（企画・プログラム構築・運営支援）と、伊豆マリオットホテル修善寺（泊食・アクティビティ等プログラム協力）、プレジデント社「PRESIDENT WOMAN」（取材・集客協力）が連携して、12月14-15日の二日間にわたる「温泉地ミーティング」を開催。



参加者より出された意見等



各チームからの発表の様子（伊豆マリオット修善寺にて）

- 10名の女性リーダー（BusinessWoman）が、温泉地ならではの自然、温泉によるリフレッシュ効果、独特の開放感、リラックス、新鮮な食という恵まれた環境の中でリフレッシュしながら、オープンイノベーション（情報交換し、互いに向上を目指す）を目的としたディスカッションや、アクティビティ＆リフレッシュプログラムなどを実践。
- 参加者からは、職場や自宅を離れ、温泉地という恵まれた環境で実施するため、脳がリフレッシュされ仕事モードから切り替えでき、さらに、企業の垣根を超えて女性リーダーがディスカッション＆合宿することで、女性活躍推進の意欲向上にも繋がるという意見があげられた。

取組概要

キーワード：温泉地インターン、トレーニングの一環

- 東鳴子温泉（宮城県大崎市）にて、株式会社リヴァは温泉地でのインターンプログラム「温泉地インターン」を2019（令和元）年に初めて実施。
- 株式会社リヴァは、都市部にてうつ病を患う人々へ再発予防訓練や職場復帰・再就職支援を行う企業であり、同社が都市部で提供する個人向けのサービス「リヴァトレ」のトレーニングの一環として「温泉地インターン」を企画。
- 実施場所は、湯治文化を大切に、湯治をテーマにした新たな取組も行う旅館大沼。その湯治を自分たちが提供するトレーニングの中に組み入れたら効果的なのではないかと思い企画、実施。

東鳴子温泉

- 東鳴子温泉は、宮城県の北に位置する古来より湯治や長期療養滞在、宿泊、日帰り入浴もできる湯治場。鳴子温泉郷の一つ。



実施主体

○株式会社リヴァ

- うつ病の方の社会復帰支援として、その根本である考え方や行動に対して働きかけている。
- 社会の仕組みの中で誰もが当たり前のよう一度立ち止まって「自分らしい生き方」を考え選択していけるような社会をつくりたいと思い、4つのサービスを提供。
- その一つが個人向けのサービス「リヴァトレ」である。センターに通い、コミュニティの中に身を置きながら、生活リズムを改善するとともに、仕事を進める上での課題と向き合い、自分に合ったストレス対処法などを身に付けてもらう。



リヴァトレ ～福祉制度を活用したサービス～



温泉地インターン

- 「リヴァトレ」トレーニングの一環として、2019（令和元）年、初めて温泉地での「インターンプログラム」を実施。場所は、東鳴子温泉にある旅館大沼。湯治文化を大切にされ、湯治をテーマにした新たな取組も実施。この湯治を自分たちが提供するトレーニングの中に組み入れたら効果的なのではないかと思って始めた。
- 対象者には、インターンとして、慣れない環境の中で、12日間、露天風呂の清掃、チェックイン業務、食事の準備、片付けなどを行ってもらった。
- 同期間中は、毎日3回、温泉に入浴するほか、全国から同旅館に湯治目的で集まっている方々と夜ご飯を一緒に食べて交流したり、休みの日には、周辺の自然を満喫するなどして過ごされていたようである。
- ご本人からは、誰も知らないところに一人で赴き、スタッフの方々と連携して仕事をできたこと、そして、お客さんにも対応できたことが自信に繋がったと聞いている。

今後の展開

- 今後は、今回のインターンプログラムをより多くのリヴァトレ利用者に紹介するとともに、弊社が展開する業務システムを利用いただいている同業他社の利用者さんに対しても紹介し実績を増やしていきたい。
- あくまでインターンであり、ストレスが掛かることが重要であるため、受け入れ温泉地の方々は、気を遣わず普通に接して仕事を振っていただければと思う。温泉地の方々、関係者と協力しながら仕組みを広げていきたい。

大沼旅館インターン

<概要>

- ・2019年10月25日～11月7日までの12泊
- ・リヴァトレ仙台の利用者 1名
- ・掃除など業務を手伝いながら湯治（湯、食事）を実践

<インターン期間中の業務>

- ・朝6時からの露天風呂清掃
- ・チェックイン業務
- ・食事の準備、片付け
- ・2時間かけての風呂掃除
- ・部屋掃除、準備

<業務以外>

- ・1日3回のお風呂
- ・湯治に来ている方との交流（夜一緒にご飯を食べる）
- ・休日は温泉、自然を満喫



インターンプログラム

目的

- ・慣れてない環境でストレスをかける
- ・新たな自分の強みや課題を知る
- ・様々な働き方、暮らし方を体験する

取組概要

キーワード：景観整備、温泉熱、バイナリー発電

- 土湯温泉（福島県福島市）は、東日本大震災後に停電が発生し、全ての機能がストップしたことを受けて、「これからは観光地としてのエネルギーを考えていかなければいけない、再生可能エネルギーを整備していこう」と考え、取組を実施。
- 土湯温泉観光協会と土湯温泉組合が出資し、復興まちづくり会社「株式会社元気アップつちゆ」を設立。未利用温泉活用によるバイナリー発電に取り組む。
- また、東日本大震災後に温泉街中心部で廃業した宿の再生を行った。

土湯温泉

- 土湯温泉は、磐梯朝日国立公園の中に位置している温泉地であり、福島市内の高湯温泉とともに国民保養温泉地に指定されている。
- 東北三大こけしの発祥地であり土湯こけしで有名な地域である。



東日本大震災後の状況

- 東日本大震災後に温泉街中心部では、16軒のうち5軒の宿が廃業。2つの復興再生機関を発足して取り組んだ。
- 「土湯温泉町復興再生協議会」（後の土湯温泉町地区まちづくり協議会）は、5年間の事業期間に、民間活力も導入し、3軒の宿を再生。
- 土湯温泉観光協会と土湯温泉組合が出資し、復興まちづくり会社「株式会社元気アップつちゆ」を2012（平成24）年10月に起業。



- 震災後、お客様がいらっしゃったにも関わらず、3日間停電が発生し、全ての機能がストップした。非常にインパクトが強く、「これからは観光地としてのエネルギーを考えていかなければいけない、再生可能エネルギーを整備していこう」と考えた。

温泉熱の有効活用

○元気アップつちゆ

- ・ 砂防堰堤の一つを活用した小水力発電では、一般約200世帯に相当する電力を、未利用温泉活用によるバイナリー発電では、一般約800世帯相当の電力を生み出している。
- ・ 土湯温泉の源泉は蒸気を中心として地上に噴き出す環境になっており、その上に発電設備を設置してバイナリー発電を行っている。
- ・ また、再生可能エネルギーへの理解促進を図るために、発電後の熱水を二次利用してエビの養殖事業も行っている。

廃業旅館の再生等

- ・ 温泉街中心部では、16軒のうち5軒の宿が廃業
- ・ その後、民間活力も導入し、3軒の宿を再生
- ・ 廃業旅館と公衆浴場を一体再生した「中之湯」を整備
- ・ まちおこしセンター「湯楽座」
- ・ 観光交流センター「湯愛舞台（ゆめぶたい）」



取組概要

キーワード：バイナリー発電、温泉地と企業の連携、リフレッシュチャージ、ワーケーション

- 松之山温泉（新潟県十日町市）では、地域プラットフォーム企業「松之山温泉合同会社まんま」が東京に拠点を置く(株)地熱開発、そしてその親会社であるGPSSグループと連携して、各種取組を実施。
- 松之山温泉合同会社まんまと(株)地熱開発が共同出資した「松之山温泉合同会社地・EARTH（ジアス）」が発電・売電事業を実施。
- さらに継続的な関係が見込まれ、コロナ禍にあっても来訪が見込まれるGPSSグループの方にワーケーションとして温泉地に来訪してもらい、リフレッシュチャージしてもらうことで、温泉地の賑わい創出を図ろうとモニターツアーを試みた。

松之山温泉

- 松之山温泉は、日本三大薬湯の一つ（有馬温泉、草津温泉）。
- 豪雪地帯に位置し、積雪が4 mを超えることもある。
- 山里にあり、棚田やブナ林など美しい日本の原風景が周辺に残る。



実施主体・関係者

○松之山温泉合同会社まんま

- 7軒の旅館と建設会社、土産物店の16人の共同出資による旅行業を持った地域プラットフォーム会社である。インフォメーションセンター「里山ビジタセンター」の運営、旅行商品の企画造成販売、「湯治豚」など旅館等で食べる名物料理の開発、温泉コスメの販売などさまざまな事業を実施し、温泉熱利用による消雪パイプの稼働もしている。
- 着地型体験プログラムも「里山の恵み案内ガイド」とともに、8プログラムの受入販売。

○(株)地熱開発及び親会社GPSSグループ

- 地域との共同事業を通じて、売電収入だけでなく、新たな地域の産業・雇用など永続的な価値を生み出すことを目的に、地域とともに太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオガス + WTP の持続可能な5つのエネルギー事業に取り組んでいる。



温泉熱の有効活用

- 松之山温泉では環境省におけるバイナリー発電の実証実験を平成22年度より計6年間実施。
- その後の地熱理解促進事業において、松之山温泉合同会社まんまは中心的な役割を担った。

景観形成

- 温泉熱による融雪によって、松之山温泉景観形成事業はグッドデザイン2017を受賞。



- 松之山温泉合同会社まんまと市の公募で選ばれた株式会社地熱開発が共同出資した「松之山温泉合同会社地・EARTH（ジアス）」が発電・売電事業を実施。
- 既存の施設は撤去した上で、今回新たに施設「コミュニティ発電 ザ・松之山温泉」を建設し事業を開始。
- もともと鷹の湯3号源泉を掘った時に湧出量が多く、それを有効活用するという視点からバイナリー発電に取り組むこととなった。
- 源泉から毎時1.7t噴出する蒸気と、30tの湯の熱を使い、沸点15度と低い代替フロンの沸騰で発生する蒸気でタービンを回す。発電規模は210kWh、年間124万kWh。



- これはどこの温泉地でもできるわけではなく、いろいろな背景や条件がクリアされた中でできているが、合意形成は簡単ではなかったとのこと。

ワーケーション

温泉地× ワーケーション× リフレッシュチャージ



- 松之山温泉合同会社まんまは、地域のエネルギーである温泉熱を活用した発電事業を協働して行う株式会社地熱開発が傘下にあるGPSSグループを対象に2020（令和2）年11月にモニターツアーを実施。
- 継続的な関係が見込まれるとともに、コロナ禍にあっても来訪が見込まれる企業及びそのグループ会社の方にワーケーションとして温泉地に来訪してもらい、リフレッシュチャージしてもらうことで、温泉地の賑わい創出を図ろうと試みた。
- 二日間のツアーの中では、越後妻有太閤寺高原キャンプ場や、まつのやま学園でのテレワークの可能性を探るために、コーディネーターから同学園の取組や雪里留学(短期留学制度)、ガイド(同学園アウトドア部外部講師)からキャンプ場でのアクティビティ等について説明させていただく場を設け、意見交換を実施。ファミリーでの滞在に向けては、移動、滞在場所、短期留学の3つにかかる手続きをワンストップで行える仕組みがあればという意見などが出た。
- 今後は、発電所事業とともに、視察を含めた松之山フィールドを体験する商品などを提供できるようにしていきたいとのこと。

取組概要

キーワード：跡地利用、景観整備、入湯税、超過課税

- 阿寒湖温泉（北海道釧路市）では、釧路市が2015（平成27）年4月から導入している入湯税の引き上げ分を活用して、大規模ホテルの跡地に「森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン」を整備。
- 入湯税の引き上げにあたっては、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構と（公財）日本交通公社が共同で「独自財源研究会」を実施。
- なお、「森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン」の整備にあたっては、国立公園事業の変更が行われた。

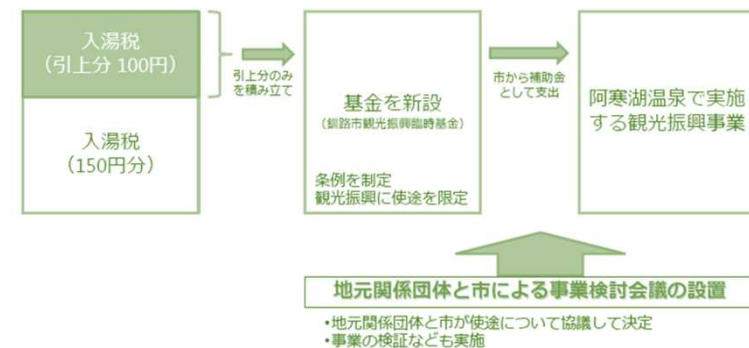
阿寒湖温泉

- 阿寒湖温泉は、阿寒湖の南岸に位置する温泉街である。
- 国立公園阿寒摩周国立公園に属し、同温泉地は阿寒湖畔集団施設地区となっている。周囲には亜寒帯性の原生林が広がる。
- 年間宿泊者数約60万人、主な利用形態は湯治、自然散策、観光船での湖上周遊、冬季間の氷上利用等である。



独自財源の確保（入湯税の超過課税の導入）

- 阿寒湖温泉では、大規模ホテルの閉館に伴う跡地問題を契機に、安定的な独自財源確保に向けての検討を開始。
- NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構と（公財）日本交通公社が共同研究を実施。地域の人々が参画する「独自財源研究会」を設立開催し、2013（平成25）年11月には独自財源研究会が釧路市長に要望書を提出。
- その後、市役所内での議論、総務省との調整、パブリックコメントを実施。
- 2014（平成26）年12月議会で超過課税導入が可決され釧路市税条例が改正。2015（平成27）年4月から施行。



入湯税引き上げ分の使途

- ・ 釧路市は、入湯税の引き上げ分を釧路市観光振興臨時基金として積み立て。
- ・ 同基金の使途は、国際観光地環境整備事業とおもてなし事業の二つ。国際観光地環境整備事業においては、「森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン」の整備に充当。

森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン



入湯税を活用した環境整備

- ・ 既存駐車場の多くは国道を挟んで温泉街と反対側に位置するため、車利用の際の利便性が従前より課題。
- ・ そのため、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構が観光振興基金財源を活用し、宿舎事業跡地（約4ha）において「森の駅ー阿寒・フォレスト・ガーデン」整備計画による民設民営の有料駐車場の整備を予定。
- ・ 植栽を積極的に行う計画となっており、景観に配慮。

観光振興臨時基金の使途

1 国際観光地環境整備事業

■フォレスト・ガーデン（F G）整備事業

阿寒湖温泉玄関口の観光動線の変革・整備
国際観光地にふさわしい表玄関の整備

■まちなか活性化事業

- ・ 外客対応「案内板」整備事業
- ・ 外客対応「通信環境」整備事業（Wi-Fiなど）
- ・ 外客対応「散策路」整備事業（遊歩道・登山道）
- ・ まちなかアート導入事業（アイヌアートの活用）
- ・ 景観改善支援事業（空き店舗対策・店舗改装 資金支援枠組 みづくり等）
- ・ 花いっぱい運動推進事業

2 おもてなし事業

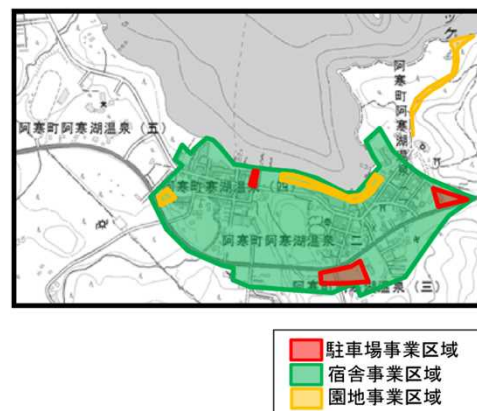
■「まりも家族コイン」推進事業

2002～03年に実施した「まりも家族手形」事業を参考にして、名称を「まりも家族コイン」に改め、阿寒湖温泉に宿泊されたお客様1人につき1枚を発行、各協賛店舗や施設で各々が考案する個別のおもてなしサービスと交換できる。コインの裏にQRコードを印刷し、スマートフォンで最新のサービス情報を閲覧できる。

■阿寒湖温泉・まりも家族バス「まりむろ」運行事業

2004年～06年に交通社会実験として取り組んだ循環バス事業を参考にして、観光客の交通利便性を図るため、阿寒湖温泉街を中心に一部周辺地域（滝口、スキー場）への運行も含め、毎日無料で運行サービスを提供する。

【変更前】事業決定区域図



【変更後】事業決定区域図



出典：第34回自然環境部会 阿寒国立公園 (https://www.env.go.jp/council/12nature/y120-34b/mat01_3.pdf)

阿寒湖畔駐車場 変更内容：規模の拡張
阿寒湖畔宿舎 変更内容：規模の縮小
阿寒湖畔園地 変更内容：規模の拡大